

感染症科

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療科長 渡邊 秀裕
医局長 中村 造

医師数 6名

● 診療科の特徴

当科では感染性疾患に幅広く対応しています。

細菌感染症：菌血症、敗血症、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、咽頭炎、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、眼内炎、肺炎、膿胸、肺化膿症、感染性心内膜炎、縦隔炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、感染性腸炎、クロストリジウム・ディフィシル腸炎、憩室炎、虫垂炎、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、骨盤内炎症性疾患、化膿性椎体炎、化膿性関節炎、骨髓炎、筋膿瘍、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、リンパ節炎、術後創部感染、カテーテル関連血流感染症、化膿性血栓性静脈炎など

抗酸菌感染症：非結核性抗酸菌感染症、排菌のない肺結核・肺外結核

ウイルス感染症：EBウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザウイルス感染症、成人麻疹・風疹、水痘、伝染性単核球症様症候群など

真菌感染症：カンジダ、アスペルギルス感染症など

原虫・寄生虫感染症：アメーバ症、ジアルジアなどの原虫感染症、日本海裂頭条虫症等の腸管内寄生虫症など

HIV感染症・AIDS：新規HIV感染、ART導入中HIV感染症・AIDS、HIV関連日和見感染症など

性感染症：主に性感染症一般。梅毒、淋菌、クラミジア、尖形コンジローマ、単純性ヘルペス感染症など

輸入感染症：マラリア、デング熱、チクングニヤ熱、腸チフス、レプトスピラ症、リケッチア感染症、渡航者下痢症など

不明熱：原因不明の発熱、持続する発熱、海外渡航後の発熱など

● 診療体制と実績

感染性疾患には、細菌、ウイルス、寄生虫など多量の病原微生物が存在しており、肺炎や尿路感染症などのように感染臓器が特定される疾患から、敗血症や難治性感染症などのように特定の臓器に感染が限定されず多岐・全身に及ぶことも多くあるといえます。このためどの診療科への受診が適切であるか苦慮することも少なくありません。不明熱や白血球の増加・CRPの高値などの炎症反応持続といった症例も含め、臓器横断的・総合的に受け入れ、感染症診療を行っています。さらに耐性菌に対する診療やその制御対策のアドバイスも行っています。対象疾患はHIV感染症、非結核性抗酸菌症・マイコプラズマなど非定型感染症、椎体炎などの細菌感染症、梅毒・クラミジア・淋病などの性行為感染症、デング熱・腸チフスなどの渡航感染症、寄生虫疾患など多数の症例の診療実績があります。

薬剤師やソーシャルワーカーなどとの多職種連携も積

極的に実施し、多方面からの疾患管理を心掛けているとともに、地域連携の構築に努力しています。

H28 入院患者

